

## 風格のある東京駅

東京に行っても、新幹線の八重洲口はよく利用するが、丸の内口にはあまり出ない。時間に余裕があったので、丸の内口に出て東京駅を眺めることにした。やはり歴史を感じさせ、風格と気品がある。今回「赤レンガの東京駅を愛する市民の会」にアクセスしてみた。これによると東京駅が完成したのは大正3(1914)年であり、今年で92年になる。関東大震災ではビクともしなかったが、昭和20年5月の大空襲で一部炎上したが、応急修理により50年以上もちこたえてきた。

1987年春、まさにバブルの時代に赤レンガの東京駅取り壊し計画が浮上した。市民の会などの保存をめざす活動により、「現在地で形態保存」が決まった。2003年には重要文化財に指定され、今年の夏から復元修復工事が開始され、完成は2011年という。とにかく風格のある東京駅が取り壊されることなく、修復工事により保存されることは喜ばしいことだ。



ただし、東京駅が位置する丸の内界隈も再開発ラッシュだ。せっかくの景観も超高層ビルで台無しだ。



2 日付日本経済新聞

によると、三菱地所は2009年春の完成をめざし、35階建ての複合高層ビルを新築する。規制緩和や都市再生のもとで9棟が建て替えられ、投じた資金は3860億円に達する。近隣の日本橋地区では三井不動産が再開発を進めている。赤レンガの東京駅は、歴史的な事件の舞台になり、歴史の荒波をじっと見つめているようだ。

(2006年6月6日 記)